

令和3年度 高知県職員NPO短期派遣研修意見交換会

日 時：令和4年2月10日（木）13：30～15：00

場 所：高知県職員能力開発センター 201 会議室

参加者：研修参加職員5名（事務局1名含む）、事務局2名

概 要：

1 開会

事務局からの挨拶

2 研修概要説明

事務局から研修の目的、仕組み、研修実施の経過等について説明

3 意見交換(発言要旨)

① NPOの活動について

- ・あるNPO団体では、会員間の日頃の勉強会などメンバーの熱心さや、各部門のリーダー制度により団体の運営がうまく回っている。メンバーが持つ熱量がNPO活動の積極性に反映している。
- ・メンバーそれぞれが持っている得意分野を団体運営に活かせることができるNPOは、自ずと活動が活発になる。
- ・NPOは、福祉や健康保健、観光など地域住民の具体的な課題に直に接している。
- ・NPOの活動に参加し続けるメンバーのモチベーションの維持には、自分の得意分野を活動に活かしているという実感が必要。
- ・公務員OBで構成されているNPOがある。退職後も市役所の現役職員と協力して、地域の課題に取り組み続けているという事例をこの研修で知った。地域の課題を解決したい、貢献したいというモチベーションの大事さを感じた。
- ・モチベーションは無論大事だが、活動時間を区切ってその時間内でNPOの業務をするなど、長く継続するためには無理をせず自分の負担になり過ぎないように、自分への配慮も大切だ。コーヒープレイクもきちんと取り、活動量の際限がなくならないように気を付けるなど、負担にならない範囲にとどめる工夫も大事。
- ・高知のNPO活動参加に熱心になり、そのため勤めていた会社を辞めて高知に移り住んだ方もいる。これはその方の熱量と、地域の状況がうまくマッチしたパターンだ。
- ・県内NPOの構成メンバーの多くが高齢者で占められているのは、今後の業務継続を考えると大きな課題である。
- ・行政と違ってNPOは動きが迅速で、必要としている層への対応が素早い。ただ、予算、資金繰りに苦労していて、助成金申請も手続きが煩雑なせいか動きが鈍ってしまう。行動力の速さという長所を行政が支えることができればと思う。
- ・リーダーシップを持ったリーダーが他メンバーとNPO活動を引っ張っていく印象。活動手法がおおらかである一方で、ルールが整理されていない面もある。

- ・ NPO は、その活動内容が好き、得意ということで参加しているメンバーが多く、知識も豊富。熱意もある。一般事務職との違いを感じる。行政職員が同じ熱量を持って、同じ方向を向くことが必要。NPO メンバーの熱量、知識、柔軟さの差を埋めていく努力も必要。
- ・ NPO 団体の活動に、地域住民が当たり前のように参加している光景を見た。地域との連携、密着の強さに驚いた。行政は一部住民と密着し過ぎては駄目な点がある。ただ、地域との連携の大切さを感じた。
- ・ ある NPO では、メンバー間でグループ分けを行い、そのグループ代表を決めるといった管理体制がある。定期的に勉強会も開催されている。熱意を感じた。観光福祉など地域の課題解決のために同じ思いを持って集まって来ている。行政の手の届かない部分が、活動のきっかけになっている。
- ・ 総じて NPO のメンバーは高齢者が多い。退職後も社会に貢献したいという思いがあるが、そのモチベーションを維持していくのが難しい。
- ・ 県外からの I ターンや地域協力隊の方が高知に入っこれられる上で NPO メンバーになる事例もある。地域住民とは違った発想やノウハウ、熱量がうまくかみ合うと力になる。ただ、活動量が負担になり過ぎないことがポイントだ。
- ・ 地域の問題解決に特定の住民が頑張るというのも、未永く続けていく点で、行政としては考える必要がある。
- ・ ある NPO では、県外から移住してきたメンバーの数が多かった。地域の魅力や資源に惹かれて移住されて来ていた。地域の魅力の情報発信は大事だ。
- ・ 県市町村の自治体職員はそれぞれの行政の枠組みの中で動いている。その違いを理解した上で、うまくマッチさせることがポイント。

② 県職員NPO短期派遣研修のあり方について

- ・ この研修に参加しやすくするためには、各所属長の研修への理解が不可欠。また、案内通知を見逃している職員も多いと思う。新採職員向けに案内をしてみてもどうか。
- ・ この研修の仕組みは良かったと思う。ただ、終日屋外で体を使う研修があるような場合は、準備のため事前にそういった情報を知らせてほしい。実際の研修の大変な面も詳しく教えてもらいたい。
- ・ 県庁各課室とつながりのある NPO を知らせてもらえると検討しやすく、また上司の決裁も得やすくなるのでは。
- ・ 配属されている課室の業務と直接関わりの無い分野の NPO への研修参加については、所属長の理解を得るのが難しいと思う。このような場合でも上司の許可を得やすい仕組みが必要。
- ・ 体力を使うハードな研修の場合は、女性には大変だと思う。
- ・ 研修の実施時期について、参加募集の時期ではまだ秋の予定がわからず、参加したくてもあきらめてしまう場合もある。
- ・ 研修参加で得た知見を、具体的にどのように業務へフィードバックできるだろうか。

③ 行政職員がNPOに対する理解を深め、協働を進めることについて

- ・地域の課題解決のためには、県職員とNPOメンバーの視線は同じ方向を向いているはず。課題解決への取り組み方法が異なっているだけであり、課題を共有することによって、迅速さといったNPOの長所を生かせるようにすべき。
- ・県職員によるNPOそのものの理解を深めていくために、短めの紹介動画を作成してはどうか。
- ・NPOは県行政よりも住民との距離が近い。住民の中に入って行けるのがNPOの強み。県はNPOへの適切なサポートをしつつ、その利点を借りるべき。
- ・NPOと県は、まだ相互理解に乏しいように思える。県職員の新採研修でNPOに関する学習機会を設けたらどうか。また、事業を進めていく上で生じるNPOと県の考え方の相違の溝を埋めていくためにも、新採時の研修があればよい。
- ・県庁各課室と業務上つながりのある各NPOの一覧及びそのNPOが実際に行っている事業がわかるような情報提供があれば良い。また、NPOしかできないような業務の情報も、事前に共有されていた方がよい。NPO側にも県の状況や事情を伝えるなど、お互いの情報共有が重要と思う。
- ・情報発信には課題が多くあり、改善の余地がある。

④ その他

- ・コロナ禍の影響により、県内NPOの活動に支障を来している面が見られる。

4 閉会

事務局からの挨拶